

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19401023

研究課題名(和文) オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築

研究課題名(英文) Descriptive Studies on the Omotic and Cushitic Languages and the Construction of Database using GIS.

研究代表者

乾 秀行 (INUI HIDEYUKI)

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号：10241754

研究成果の概要(和文)：

エチオピアで話されているオモ・クシ系少数言語の記述研究を行い、収集した文法、語彙、音声、映像のデータベースを構築して、WEB上でGIS(地理情報システム)を用いたエチオピアのデジタル言語地図と関連づけた。

研究成果の概要(英文)：

Our project has performed two activities. First, we conducted the descriptive studies on the Omotic and Cushitic languages spoken in Ethiopia and collected basic linguistic data. Second, we made a digital map of the Ethiopian languages based on GIS (Geographic Information System) and constructed a database on the Internet, holding grammatical, lexical, sound and video data we collected in our field surveys.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2008年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度	0	0	0
総計	12,900,000	3,870,000	16,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：オモ系言語，クシ系言語，少数言語，言語接触，エチオピア，社会言語学，基本語彙，GIS

## 1. 研究開始当初の背景

エチオピアには、大小80を越える言語が話されている。その多くはアフロ・アジア語族に属する言語で、セム系、クシ系、オモ系に分類される。その中でセム系言語の記述研究が比較的進んでいるのに対して、オモ・クシ系の言語の記述研究はあまり進んでいない。とりわけ本研究で対象とする少数言語の詳細な記述研究が少ないために、それぞれの言

語の特徴に関してもまだよくわかっていないことが多く、系統関係について論じるための基礎資料が十分あるとは言えない。

## 2. 研究の目的

これまで十分な調査研究が行われてこなかったエチオピア南西部で話されているオモ・クシ系少数言語の記述研究を期間内にできる限り行うことを目的

とする。

また、収集した語彙・文法などのデータは、紙媒体で公開した後は研究者が個人所有するのではなく、共同利用できる形で広く世界に提供できるように、GIS（地理情報システム）によるエチオピアのデジタル言語地図をWEB上に載せ、それと言語データを連携させることで、WEB上で言語特徴に関する様々な検索ができるようにするシステムを研究開発する。その場合、音声・画像・動画も同時にデータベース化されることになる。

### 3. 研究の方法

- (1) 毎年メンバーがエチオピアに現地調査に出かけ、首都アジス・アベバにあるアジス・アベバ大学エチオピア学研究所 (IES: Institute of Ethiopian Studies) で調査者としての身分証明書 (IDカード) と調査許可書を受け取り、エチオピア南西部に数日かけてレンタカーなどの交通手段を用いて移動し、約1ヶ月程度調査地に滞在して、それぞれが対象としているオモ・クシ系の少数言語の記述を行う。

また、アジス・アベバ大学言語学科や言語センターの言語研究者との共同研究も同時に進める。エチオピア人研究者にとって調査地への移動は、移動手段が限られているため、時間的・経済的に大きな負担となり、少数言語の記述が進んでいない一つの要因となっている。我々が調査地に行く際に、エチオピア人研究者もレンタカーに同乗することで、彼らの調査地への移動を容易にし、またアジス・アベバ大学の言語学科の大学院生の研究支援について積極的に関わることで、彼らとの共同研究体制を築く。それはまた、エチオピアで我々が言語調査を滞りなく行う上で、彼らからの様々なサポートを得ることが可能となる。

なお、期間内に調査対象としたオモ・クシ系の少数言語は、オモ系のバスケット語、アリ語、ディメ語、ハマル・バンナ語、マロ語、ガンジュレ・ガツァメ語、シナシャ語、ベンチュ語、クシ系のコンソ語、アウンギ語、ハディーヤ語である。

- (2) データベース構築に関しては、GISサーバを山口大学メディア基盤センターに設置し、GISに対応したエチオピアのデジタル言語地図をWEB上に載せ、地図情報レイヤの検索方法の改善と検索結果の効率的・効果的表現法の研究開発を行い、また音声記号が表せるようにユニコード対応の言語毎のホームページ

作成を行う。

### 4. 研究成果

現地調査に関しては、研究代表者である乾(山口大学)は、オモ系のバスケット語の文法記述を行った他、マロ語のガンジュレ・ガツァメ語の語彙調査、バスケット語、ガンジュレ・ガツァメ語の社会言語学的調査を行った。研究分担者である柘植(金沢大学)はオモ系のアリ語、ディメ語の語彙・文法調査を行った。同じく研究分担者の小脇(熊本大学)は、クシ系のコンソ語の語彙・文法調査及び社会言語学的調査を行った。

研究協力者としてエチオピアのアジス・アベバ大学言語センターのムルゲータ氏、言語学科のビニウム氏の協力を得ることで、アジス・アベバ大学言語学科や言語センターとの共同研究も実現し、彼らと共に現地調査を行うこともできた。研究成果としては、ムルゲータ氏がCushitic-Omotc Studies にディメ語について4編発表し、ビニウム氏は同じくシナシャ語について1編発表している。

高橋、二ノ宮、半田(いずれも筑波大学大学院生)という若い研究者を研究協力者として迎え入れ、エチオピアでのフィールドワークの経験を通じて、新しい言語の記述研究に挑戦してもらい、研究成果を出すことで言語学者として大きく成長させることに貢献できた。彼らの具体的な研究内容は以下のとおりである。

高橋洋成：ハマル・バンナ語の記述研究及びデータベース構築 (Cushitic-Omotc studies にハマル・バンナ語について4編、データベース構築について4編発表)

二ノ宮崇司：ハディーヤ語の記述研究 (Cushitic-Omotc Studies にハディーヤ語について2編発表)

半田達郎：ベンチュ語の音声研究 (Cushitic-Omotc Studies にベンチュ語について1編発表)

研究成果は、主に毎年Cushitic-Omotc Studies を年度末に発表した。A4で200ページ前後の分量を毎回コンスタントに発表できたことで、今まであまり知られていなかったオモ・クシ系少数言語の基礎データを公開できたことは実績である。なお、そこで発表した論文は紙媒体だけで終わらせるのではなく、現在準備中のホームページにもPDFファイルにして載せる予定である。なお、この一連のプロジェクトの初期の段階でメンバーとして加わっていた中野暁雄氏(当時平成帝京大学)が2008年6月

に急逝され、その遺稿の一部を Cushitic-Omotc Studies の中に載せたことを申し添える。

2009年11月にアジス・アベバ大学で開催された第17回エチオピア学国際会議(The 17<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian Studies)で乾はバスケット語の文法について発表を行い、世界の多くのエチオピア諸語の研究者と情報交換を行った。

本研究では、エチオピアを訪れる人類学や歴史学などの他分野の日本人研究者や JICA などのボランティア活動をする人のために、エチオピアの作業語であるアムハラ語の入門書を柘植が作成したことも一つの研究成果である。彼らにとって言語は研究活動や様々な活動を行う上で最大の問題となる。言語学者の手で、日本人にとって学びやすい入門書を提供することができた。

データベース構築に関しては、WEB上にエチオピアのデジタル地図を載せ、エチオピアの言語毎に系統、基本語順、語彙、音声、画像、映像などの言語データを入れた。また通常の WEB 検索エンジンと機能的に遜色のない検索機能を研究開発したことで、いろいろな形で言語特徴の検索結果を地図上に色や斜線などで瞬時に表し分け、さらにそれを画像ファイルとして保存できるシステムを構築した。

一方、それぞれの言語データは、包括的に捉えられるように言語毎にユニコード対応のホームページを作成し、言語の基本情報、基本文法項目、語彙の具体的な音声、文献目録などを作成し、地図データとリンクさせて、WEB上からすぐさま参照できるようにした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 18 件)

- ① 乾秀行、バスケット語名詞 500、Cushitic-Omotc Studies 2010、9-29、2011、査読無
- ② 乾秀行、バスケット語の文字化の確立に向けて、Cushitic-Omotc Studies 2010、31-68、2011、査読無
- ③ 乾秀行、コウエグ語の試験調査報告、Cushitic-Omotc Studies 2010、69-89、2011、査読無
- ④ 柘植洋一、アリ語、バンナ語の文字化資料とその表記方法について、Cushitic-Omotc Studies 2008、139-153、

2011、査読無

- ⑤ 乾秀行、バスケット語形容詞 200、Cushitic-Omotc Studies 2009、21-57、2010、査読無
- ⑥ 乾秀行、ガンジュレ語とガツァメ語の語彙、Cushitic-Omotc Studies 2009、59-85、2010、査読無
- ⑦ 小脇光男、コンソ語の親族名称に関する覚書、Cushitic-Omotc Studies 2010、107-109、査読無
- ⑧ 乾秀行、バスケット語動詞 500、Cushitic-Omotc Studies 2008、11-93、2009、査読無
- ⑨ 柘植洋一、アリ語の「ことわざ」と「なぞなぞ」、Cushitic-Omotc Studies 2008、139-151、2009、査読無
- ⑩ 乾秀行、GIS を用いたデータベース構築に向けて、Cushitic-Omotc Studies 2007、1-8、2008、査読無
- ⑪ 乾秀行、バスケット語動詞 300、Cushitic-Omotc Studies 2007、31-78、2008、査読無
- ⑫ 乾秀行、地方と都市のバスケット語母語話者の言語使用、Cushitic-Omotc Studies 2007、79-92、2008、査読無
- ⑬ Yoichi TSUGE、A Basic Word List of the Dime Language、Cushitic-Omotc Studies 2007、207-215、2008、査読無
- ⑭ 小脇光男、コンソ語の基礎語彙—文字化への試み—、93-139、Cushitic-Omotc Studies 2007、1-8、2008、査読無
- ⑮ 杉井学、GIS サーバの機能増強と検索システムの構築、Cushitic-Omotc Studies 2007、9-11、2008、査読無
- ⑯ 小脇光男、コンソ語の動詞と形容詞に関する覚書、Cushitic-Omotc Studies 2008、95-105、査読無
- ⑰ 杉井学、GIS 属性情報を基にした分布域解析システムの構築、Cushitic-Omotc Studies 2008、1-4、査読無
- ⑱ 乾秀行、マロ語の音素目録、一般言語学論叢 10、1-29、2007、査読有

[学会発表] (計 1 件)

- ① Hideyuki INUI、Coordination in Basketo, The 17<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian Studies、2009.11.3、Addis Ababa University エチオピア連邦民主共和国

[図書] (計 6 件)

- ① 柘植洋一、乾秀行編、山口大学、Cushitic-Omotc Studies 2010、2011、177 頁
- ② 乾秀行編、山口大学、Cushitic-Omotc Studies 2009、2010、190 頁
- ③ 柘植洋一、金沢大学、アリ語資料集、2010、

- 168 頁
- ④ 乾秀行編、山口大学、Cushitic-Omotiic Studies 2008、2009、195 頁
  - ⑤ 柘植洋一、金沢大学、アムハラ語入門、2008、76 頁
  - ⑥ 柘植洋一、大修館書店、梶茂樹・中島由美・林徹編『事典世界のことば 141』、474-477, 498-501

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

[http://gis2.cc.yamaguchi-u.ac.jp/web\\_application/](http://gis2.cc.yamaguchi-u.ac.jp/web_application/)

\*データ保護のため、パスワード発行システムで管理している。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

乾 秀行 (INUI HIDEYUKI)  
山口大学・人文学部・准教授  
研究者番号：10241754

### (2) 研究分担者

柘植 洋一 (TSUGE YOICHI)  
金沢大学・歴史言語文化学系・教授  
研究者番号：50092276

小脇光男 (KOWAKI MITSUO)  
熊本大学・国際化推進センター・国際語学  
部門・教授  
研究者番号：30136030

杉井 学 (SUGII MANABU)  
山口大学・大学情報機構・准教授  
研究者番号：00359910

### (3) 連携研究者

なし